

2021年12月報告書

呉 悠

もくじ

1. はじめに
2. 履修している授業
3. 日本とアメリカの大学の比較
(勉強・授業システム・生活環境)
4. 3か月で得たこと
(自己中と幸せについて)
5. さいごに

1. はじめに

ボストン大学学部1年の呉と申します。

この報告書では、生まれて初めてアメリカに飛び立った私が3か月間でどのようなことを学び考えているかをお届けしていきます。これから新しい一步を踏み出そうとしている方の参考になれば幸いです。

2. 履修している授業

【General Psychology】

心理学の概要を学ぶ必修の授業です。100人以上が受講する大規模なクラスですが、授業中でも活発に質問が飛び交っていたり、教室内で実験のデモンストレーションが実際に行われたりと工夫されており、爆速でノートを取りながら毎度楽しんで学んでいます。

講義とは別に週1でディスカッションの時間もあり、講義と関連する論文の内容に沿って行われます。まだ英語が全て聞き取れるわけではありませんが、様々なバックグラウンドや専攻の学生がいるので「日本ではこういう現状だけど、皆はどうなの？」と自分にしかできない切り口で議論を進めたり、新しい視点を投入したり、工夫しながら参加しています。この間は統合失調症（Schizophrenia）が発音できなくて友達に助けてもらいました。

【Introduction to Computing】

コンピューターサイエンスの基礎を学ぶ授業です。教授の英語のアクセントがあまり聞き慣れないものだったため、最初はテスト範囲すら聞き間違えるくらいほとんど聞き取れなかったのですが、前の席に座って教授をガン見しながら聞いたり、授業中や授業後にわからなかった部分を質問したりするなどし、最近ではだいたい理解できるようになりました。

週1で実習の授業もあり、講義の内容をしっかりと自分のものにするために大学院や学部の先輩に質問したり、プログラミングの問題に取り組んだりします。つよつよの中国人男子たちとチームになったため、中国語が飛び交うグループチャットでプログラミングと中国語を一気に学べて勝手に得した気分になっています。

【Academic Writing for ESL Students 2】

留学生向けのライティングの少人数授業です。グローバル化など現代社会に関する文章や小説を読み、ディスカッション・プレゼンテーション・小論文の執筆などをします。留学生のためのクラスとはいえ、自分以外は皆ネイティブと同じくらい（というかネイティブよりも？）英語が話せることに驚きました。英語力が圧倒的に足りない分、オフィスアワー（質

問受付タイムのこと) やメールで教授に相談したり、ライティングセンターなど大学のリソースを活用したりすることで、なんとかついていこうとしています。教授とは友達よりも頻繁に連絡を取っています。

【Third-Semester Chinese】

中国語中級レベルの授業です。英語圏の学生がどのように中国語を学んでいるのかを体験したくて受講してみました。授業の有無にかかわらず宿題が毎日出ますが、日々の積み重ねが大切な言語学習においては適切な宿題の量だと感じています。

日本人が苦手であるとされている r や sh の発音がアメリカの学生は皆自然とできている一方で、漢字を書くのは苦手な学生が多い印象でした。「なんでそんなに小さい字で漢字書けるの？すご！」とクラスメイトに褒められたので、これからはどんなに英語で躓いても「でも私小さな漢字が書けるから」と胸を張って生きていこうと思います。

3. 日本の大学との比較

私は7月まで早稲田大学創造理工学部という、これまた素敵な所に通わせていただいていた。異なる国の大学で2度も大学1年生を経験した人は多くはないと思うので、私が感じた日本とアメリカの大学の違いをいくつか挙げてみます。

(あくまで個人的な意見ですので、参考までに。)

【勉強第一】

日本の大学ではどちらかというと勉強とサークルやアルバイトの両立に忙しい学生が多い印象だったのですが、アメリカの大学生はとにかく良い成績をとるために勉強します。というのも、大学名で評価されることの多い日本の就活と異なり、アメリカでは進学や就職の際に成績が重要になるからです。また、毎日宿題が出るので、一度サボると授業についていけなくなるというのも理由の一つでしょう。日本にいた時は単位取得ギリギリを攻めて課題の取捨選択をしている人をちらほら見かけた一方で、アメリカではそういった人をまだ見たことがありません。

私かというと、受験期よりも勉強しています。しかし受験期と違って断然勉強が楽しいので、あまり苦痛だと感じません。今までは休みが待ち遠しかったのですが、こちらに来てから授業がある日が待ち遠しくなるという逆転現象が起きています。ただ最近ずっと徹夜同然で課題をしているルームメイトの健康が心配です。

【授業のシステム・サポート体制の違い】

早稲田大学の私が通っていた学科では必修授業が多く、1学期に10以上の科目を広く浅く学んでいた一方で、ボストン大学では基本的に4科目のみを集中して学びます。また、日本にいた時はオンライン授業だったこともあり、なかなか教授に分からないことを質問することが出来なかったのですが、アメリカの大学ではシャイな私ですら授業前後やオフィスアワーによく質問をしに行けるくらいオープンな教授が多い印象です。

【生活環境の違い】

日本の大学生は実家通いか一人暮らしの人が多く印象だったのですが、こちらではほぼ全ての1年生が寮生活であるため、衣食住がほぼキャンパス内で完結します。アメリカに来て感じたことを順番に書いていきます。

衣：私「アメリカで有名な洋服のブランドって何？」

友達「ユニクロ」

私「」

食：日本人の先輩に「アメリカのご飯はちょっとあれだから覚悟してね」と言われたので最初緊張しながら食堂に行ったのですが、なんとということでしょう。全てが美味しすぎてみるうちに太っていくではないですか。しかも世界中の料理が毎日食べ放題。今までは（自称）和食しか勝たん委員会会長だったのですが、世界中のご飯全部美味しい委員会へと改名の危機にさらされています。日本に帰った時ちょっとふっくらしていても、「アメリカで美味しいものいっぱい食べたんだな」と温かい目で見ていただけると幸いです。

住：普段はそれぞれの勉強で忙しいのですが、ルームメイトと夜中に部屋でトランプをしながら世界について語り合ったり、月1で壊れるシャワーとの向き合い方を考えたり、寮の廊下でスケボーの技を練習する近所のパリピ男子と冷戦を繰り広げたり、毎日楽しく過ごしています。ちなみに親と電話するときそれぞれ英語ではなかったりするので、部屋では5カ国語が飛び交います。

周囲：建物が西洋らしく美しいのはもちろん、日本が恋しくなれば和食屋さんも日本のアニメ雑貨のお店も何でも徒歩圏内にあります。アメリカらしさとアジア文化が融合した雰囲気心地良すぎて、私よりもなぜか現地人の友達の方がホームシックになっていました。ボストン最強。

4. 3か月で得たこと

我ながらここまで成長した3か月はなかなか今までになかったと思うので、勉強面以外で学んだことのうち、ここまで読んでくださっている方の役に立ちそうなことを2つだけ記録しておきます。

【自己中で良い】

もし今何か苦しんでいることがある方がいらっしゃれば、それはあなたのせいではなくて、環境がたまたま合っていなかっただけかもしれないよ、と伝えたいです。

アメリカには色々なバックグラウンドを持った人がおり、お互いあまり干渉せずそれぞれが自分のできること・やりたいことをして生きています。日本にいと環境によっては物差しが一つしかない（例：学歴・収入・いかに周りに合わせられるか）と感じてしまい、その物差しにおいて低い数値になってしまった人は周りから「〇〇なんだからこうすべきだ、ああすべきだ」と言われ潰されがちですが、本来は人の数だけ物差しがあっていいはずですし、それぞれが自分に合った物差しで自分らしく生きる選択肢があるべきです。

具体的に私の例を挙げると、日本にいた時は他人の目を気にして劣等感を覚えすぎるあまり、不安で満足に睡眠や食事がとれない日々を過ごしていたこともありました。しかし日本からアメリカに環境を変えて以降そういった見えない抑圧から解放され、夜もぐっすり眠りご飯も美味しく食べられ、毎日の生活や勉強が楽しくて仕方なくなりました。

自分の場合はアメリカ留学でしたが、他にも探せば意外と自分に合った抜け道が色々あります。もちろん高みを目指して努力をすることは自分のためになりますが、嫌なことを苦しみながら頑張りまくって他人に認めてもらうことだけが人生ではありません。あなたの人生はあなたのものですので、他人からどう見られるかではなく自分の満足するように生きていけばよいのです。そのために環境を変えることは逃げではありません。それは新たな冒険への第一歩です。

（話が逸れますが、「やりたいことが見つからない」というのも実は「（周りに認められやすいような）やりたいこと」を探しているから見つからないのであって、本当にやりたいことへのきっかけは既に自分が無意識に持っていたりするかもしれません。）

って昔の自分に言ってあげたかったなあ（遠い目）。

【幸せとは何か】

小学生の頃から自分にとっての生きる意味や幸せについて考えていたのですが、こちらに来てたどり着いた現時点での答えを記録しておきます。

①毎日美味しくご飯が食べられ、夜にぐっすり眠れること。

高校時代のように毎日様々な予定を詰め込み、食事や睡眠を忘れて物事に熱中するのももちろん楽しかったのですが、この生き方はエネルギー切れしやすい自分にとって持続可能性が低いことに気が付きました。最近は食事と睡眠を第一優先とし、一緒にいて疲れてしまう人間関係や集中力が低い夜の長時間勉強をやめるようにしています。

(友達に「仙人かよ」とつっこまれましたが(笑))

②他人に自分の幸せをおすそ分けできること。

自分の幸せを確立した上で、自分のできることをして他人に喜んでもらえるというのはどの程度であれ嬉しいものです。自らが沢山の人から評価をされることにはあまり興味が持てませんが、自分の至らないところは人からのサポートもいただきつつ、人生を通して一人でも多くの人に良い影響を与えられるように物事に真摯に向き合っていきたい、と心から思えるようになった3か月間でした。

そして、①と②のバランスをどのようにして取るか、ということを経験の課題としていきたいと思えます。

5. さいごに

最後になりますが、ここまで人生を変えるきっかけをくださった財団の方々には、これ以上ないほど日々感謝しております。19歳の拙い文章をここまで読んでくださった方も本当にありがとうございます。

今後もアメリカで沢山のことを吸収し考え、将来日本に持ち帰りたいと思っておりますので、どうぞよろしく願いいたします。

質問・相談・依頼等あればお気軽にご連絡ください。

(ボストン付近の美味しい抹茶スイーツを知っている方もぜひ教えてください。)

2eyecontact@gmail.com